

月 mon. 19:30-21:30

五十嵐太郎 + 磯 達雄

ぼくらが夢見た未来都市

8/30、9/6、20、27、10/4、11+見学会



超高層ビルの間をぬってチューブ列車やエアカーが行き交う未来都市。そんなイメージはどこで始まり、どのように発展していったのでしょうか。五十嵐と磯の共著『ぼくらが夢見た未来都市』(PHP新書)では、実在する都市の計画からSFまで、様々な未来都市について考察しました。この本の内容をさらに深く掘り下げて8回の講義を行います。うち2回は関連する場所への見学会とします。

*見学会は、9/25(土)、10/2(土) 14:00~16:00。

いがらしたろう：建築史、建築批評家。1967年パリ生まれ。東北大学教授。主な著書に『終わりの建築/始まりの建築-ポスト・ラディカリズムの建築と言説』(INAX出版)、『現代建築に関する16章』(講談社)などがある。

いそたつお：建築ジャーナリスト。1963年埼玉県生まれ。1988~99年『日経アーキテクチャ』編集部。2000年〜ブリックスタジオ共同主宰。共著に『昭和モダン建築巡礼』(日経BP社)、『ぼくらが夢見た未来都市』(PHP新書)などがある。

火 tue. 19:30-21:30

福住 廉

アートの綴り方 vol.5

9/7、14、21、28、10/5、12、19、26



展覧会を「見る」ことから「書く」ことへ。この講座では、それぞれの感想文をもとに論じ合い、講師が添削し、リライトを繰り返すことで、書く技術とともに磨き上げていきます。展覧会を鑑賞する課外授業のほか、アーティストへのインタビュー、講座終了後にはフリーペーパー「HAMArt!」の編集・制作など、プログラムは盛りだくさん。やればやるほど、おもしろくなると思います。

ふくずみれん：美術評論家。1975年東京生まれ。『美術手帖』『artscape』『共同通信』などに寄稿する一方、東京のギャラリーマキで連続企画展「21世紀の限界芸術論」のキュレーションも手掛ける。著書に『今日の限界芸術』(BankART出版)、共著に『フィールド・キャラバン計画へ』(水声社)、『ピエンナーレの現在』(青弓社)、『道の手帖 鶴見俊輔』(河出書房新社)、『なぜ広島島の空をピカッとさせてはいけないのか』(無人島プロジェクト)。編著に『佐々木耕成展 全肯定』(3331 Arts Chiyoda)。

水 wed. 19:30-21:30

みかんぐみ

みかんぐみの考えるリノベーション

9/1、8、15、22、29、10/6、13、20



団地再生計画からBankART Studio NYK、上野ビルディング、マルヤガーデンズまで。みかんぐみを取り組んだリノベーションとともに、地域、構造、サステイナブルなエコロジー、不動産、コミュニティなど、様々な視点をおとして、リノベーションのもつ社会的な役割や背景、これからの展望を解き明かしたいと思います。

みかんぐみ：1995年設立の加茂紀和子、曽我部昌史、竹内昌義、マニエル・ダルディッツの4人による建築家ユニット。戸建て住宅から、保育園、小学校やライブハウスなどの建築設計を中心に、家具、プロダクト、展覧会でのインスタレーションなど幅広くデザインを手がける。BankART では「ハンガートンネル」、「マナイタハウス」、「銀行美術の石焼蒸気温泉」を制作。2008年BankART Studio NYKの改修設計を行う。

木 thu. 19:30-21:30

飴屋法水

体の壁の前で考える

9/2、9、16、23、30、10/7、14、21



写真：池田晶紀

この体が痛になっても、「私」は気づくことすらできません。しかし痛であると知らされてしまえば、痛ではない「私」では居られません。告げられた死期で生き方を考えたり。どうやら「私」は、この体の主人では無いようです。さて、そんな「私と体の関係」が、演劇と呼ばれるものの中心にあります。質問・対話・ワークショップ… いったい何ができるか、互いの体を出会わせてから、考えてみることにします。

あめやのみみず：1961年生まれ。49歳。1児の父。17歳より演劇の音響、演出、出演、美術界での発表、ペットショップ経営、音楽ライブへの参加など、活動は多岐に渡るが、一貫して、人間の身体、動物と人間、人間が創った技術と人間との関係をテーマにしている。近作は、平田オリザ作「転校生」の演出、山川冬樹や大友良英との共同作業、サラ・ケイン作「4.48サイコシス」の演出など。

金 fri. 19:30-21:30

朝倉 摂

朝倉 摂の舞台美術の世界

8/27、9/3、10、17、24、10/1、8、15、22



8/27 講義
9/3 講義
9/10 展覧会オープニング
9/17 演劇公演
9/24 演劇公演
10/1 演劇公演
10/8 演劇公演
10/15 演劇公演
10/22 講義

9月10日から11月7日まで、BankART Studio NYK全館を使用しての大規模な個展を開催する朝倉摂氏による講座。展覧会会期中は朝倉氏の舞台での演劇公演を鑑賞。時間があるときは公演終了後お話を伺う。

【特典】展覧会+各演劇公演チケット

あさくらせつ：舞台美術家。画家。1922年東京都生まれ。1970年ロックフェラー財団の招きでニューヨークに滞在、舞台美術を研究。以降現在に至るまで、国内外で第一線の舞台美術家として活動し続けている。主な受賞歴は、1982年日本アカデミー賞優秀美術賞(『悪霊島』)、1985年芸術祭賞、1987年紫綬褒章、日本アカデミー賞優秀美術賞(『つる-鶴-』)、1995年読売演劇大賞優秀スタッフ大賞、2006年文化功労者など。

土 sat. 16:00-18:00

木下直之 仮設、エフェメラルなるものへの愛

—建物・つくりもの・見世物—

8/7、21(2回分)、28、9/11、18(2回分)、25



8/7 16:00~18:00
8/21 13:00~15:00
16:00~18:00
8/28 16:00~18:00
9/11 16:00~18:00
9/18 13:00~15:00
16:00~18:00
9/25 16:00~18:00

エフェメラルephemeralの語源は蜻蛉ephemera、転じて、はかない、束の間など、人生や存在が短いことを意味する。こうしたはかない造形表現に目を向けつつ、近代日本の文化を考えようとする、ある意味無謀な試み。なぜならそれらはいずれも長く存在しないのだから痕跡を残さず、したがって歴史に残らず、復元も困難ということになる。いわば反モニュメント、反美術館、反文化財について考えることになるだろう。8月21日には、鎌倉の海の家と「海の家」展見学会予定。

きのしたなおゆき：東京大学教授。文化資源学。1954年浜松市生まれ。兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館助教授を経て、2000年より現職。美術を中心に、19世紀の物質文化全般を研究対象とする。著書に『美術という見世物』(サントリー学芸賞)、『ハリボテの町』、『写真画論』、『世の途中から隠されていること』、『わたしの城下町』(芸術選奨文部科学大臣賞)などがある。

BankARTschool 2010年度 8-10月期 募集案内

BankARTスクールの概要

基本的に週1回、2ヶ月間で全8回。定員は20名程度。講座時間は19:30~21:30(土曜日は16:00~18:00)です。場所は、基本的にBankART Studio NYKになります。

スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物に5%割引、BankARTパブおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

アシスタントの募集

BankARTスクールでは、講座の記録やサポートをお願いするアシスタントを募集しています。アシスタントの方は、記録担当の講座を無料で受講することができます。意欲のある方のご参加をお待ちしております。

お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メールにてお知らせください。(メールをお持ちでない方はFAX・お電話にて)その際に受講料の振込先をお知らせいただきます。1講座15,000円(税込み)。はじめての方は入学金3,000円(税込み)も一緒にお支払いいただきます。入金が確認でき次第、手続き完了となります。また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。なお定員になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。また、一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ:BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9 BankART Studio NYK